

「ホワイトゴート」が好評

初年度60台の販売目指す

オリエンタル



全国から問い合わせが寄せられる「ホワイトゴート」

事務機器製造のオリエンタル(桐生市相生町3-800-21、熊澤孝博代表社員☎0277-532411)が開発し、今月から販売開始した、文書裁断機で切断した紙からトレットロール紙を作る「ホワイトゴート」が好評だ。桐生市役所に納入した1号機が市民から高評価を得ているほか、全国から問い合わせが絶えないという。今後この勢いを継続させようと展示会に相次ぎ出展しPRするほか、18日にテレビ番組で取り上げ

られることを追い風として、初年度60台の販売を目指す。「ホワイトゴート」は、通常は焼却処分している切断したコピー用紙と水を投入するだけで、トレットロール紙を自動で作る装置。今年度、経済産業省の「第3回ものづくり日本大賞」で優秀賞を受賞した。

先月28日に1号機を桐生市役所庁舎ロビーに設置。トレットロール紙は市民が自由に持ち帰ることができ、「いつ見に行ってもストックがない状況。すぐになくなってしまうようだ」(澤口晋哉主任)と非常に好評だという。

また、地方自治体や病院、学校、企業など全国のあらゆる業界から問い合わせが続いている。拡

販にむけた課題はコストダウン。「官公庁は環境意識からの問い合わせが多いが、民間はコスト意識からの問い合わせが多い」(能澤公擴部長)ともあり、販売価格を現在の約900万円から、設計の簡素化や安価な部品への置き換えなどによって500万円台にまで引き下げたい考え。そのほか、処理能力を高めた大型機、小規模事業所や一般家庭向けの小型機などといったバリエーションの拡充も進める。

販売体制の構築も行う。同装置は定期的なメンテナンスが必要のため、近郊は直販するが、遠方は代理店組織の構築や商社の活用などで対応する方針。

広報活動としては、11、12月と東京ビッグサイトで開かれる環境をテーマにした展示会に出展する。また、今月18日の午後6時30分からTBSテレビで放送される「夢の扉」で「ホワイトゴート」と同社の取り組みが紹介される予定だ。能澤部長は「メディアに取り上げられ反響が大きい。この反響を営業につなげたい」と話しているほか、

「ホワイトゴート」と聞けば、どんな装置のことか分かるように、ブランド化したい」と述べている。

正田醤油の田島さん、国体で優勝

女子フェンシング・フルーレで



フルーレで優勝した。左から吉澤選手、田島選手、金子選手

しょうゆ類製造販売の正田醤油(館林市栄町3-1、正田隆社長☎0276-748100)マーケティング部の田島和香さんが、9月26日から今月6日まで、新潟県で開催された第64回国民体育大会に群馬県チームの一員として出場し、フェ

ンシング成年女子フルーレの部で優勝、サーブルの部で6位入賞を果たした。

9歳でフェンシングを始めた田島さんは沼田市出身の26歳で、県立沼田女子高等学校、早稲田大学を経て同社に入社。

国体での競技は3人

一組の団体戦。田島さんは高校、大学からの盟友、NEXUSの金子さくらさん、利根商教師の吉澤千恵さんとチームを組み、突きだけで戦うフルーレで優勝、斬る攻撃が主体のサーブルで6位という結果を残した。

大会を振り返った田島さんは「きわどい勝負だったが、強い気持ちで試合にのぞみ、その結果が優勝につながった」と述べており、今後の目標については「12月の全日本選手権に同じ3人で出場する。今回良い成績が残せたので、全日本選手権でも高い目標を持ってがんばりたい」と力強く語っている。

持論を紹介する蟹橋

